

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス		開設学科		管理栄養学科		
科目名称	からだと疾病実習Ⅱ						授業形態		実習	
科目コード	307400	単位数	1単位	配当学年	2	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	山口 昌俊								ICT活 用	○
授業概要	本実習の目的は解剖生理学の知識を定着させる事と、医療機関で行われる検査を理解する事。 からだと疾病Ⅰ、Ⅱの座学では教科書やプリントで解剖学や生理学を勉強したが、臓器は立体的なもので教科書やプリントでは理解しにくい部分がある。人体図や組織図を使うことによって理解を深めてもらいたいと考えている。自分の血液を顕微鏡で見て実際に体験する事により、検査の目的や結果の評価の仕方を学んでもらう。検査データの解釈に関しては、グループごとに討論してもらう（グループワーク）。 実習で学んだ知識が医療現場でどのように役立つかを、病院での実務経験のある教員による説明を受けながら実習を行っていく。 実習の資料は初回の講義で配布する予定である。 理解度を確認するために適宜小テストを行う。									
関連する科目	本授業の履修前に受講することが望ましい科目：からだと疾病Ⅰ・Ⅱ 本授業の履修後に受講することが望ましい科目：からだと疾病実習Ⅱ、臨床医学Ⅱ、臨床栄養学Ⅰ～Ⅳ									
授業の進め方 と方法	1～14回：それぞれの機能に関して、スライド、模型などのスケッチを行い、関連する疾患について調べ、国試問題を解答・解説する流れで学習していく。 2～7、9、10回：実験方法を理解し、実験を行い、結果を考察する。 12回：実際の患者さんの血液検査データをみて疾患を推測する練習を行う。 15回：まとめの試験を行い、1年間のまとめを行う									
授業計画 【第1回】	1. 感染症 疾患と病原体について理解する。									
授業計画 【第2回】	2. 病理・症候・検査・治療 振動覚の計測を行います。腫瘍・炎症と各種臨床検査について学ぶ。									
授業計画 【第3回】	3. 腎臓 尿検査の模擬検査を行う。腎に関係するホルモンについて学ぶ。									
授業計画 【第4回】	4. 皮膚 冷点、温点、痛点の分布を調べる。2点識別閾値を調べる。皮膚の構造について学ぶ。									
授業計画 【第5回】	5. 視覚器・嗅覚器 対光反射と眼振に関する実習を行います。視覚器と嗅覚器の機能を学ぶ。									
授業計画 【第6回】	6. 聴覚・平衡感覚 音叉を使って、気伝導音と骨伝導音に関する実習を行います。聴覚と味覚の生理を学習する。									
授業計画 【第7回】	7. 神経疾患 膝蓋腱反射、アキレス腱反射、振動覚に関する実習を行います。認知症について学ぶ。									
授業計画 【第8回】	8. 先天性疾患、遺伝性疾患、代謝性疾患 先天性疾患、遺伝性疾患、代謝性疾患について学ぶ。									
授業計画 【第9回】	9. 酸素飽和度、酸アルカリ（pH） 血液中の酸素飽和度（SpO2）の測定と運動負荷試験を行います。									
授業計画 【第10回】	10. 血圧・脳血管障害 血圧の測定を行います。脳血管障害について学ぶ。									

授業計画 【第11回】	1 1. 肝臓・胆嚢・膵臓 肝胆膵の機能を理解し、ウイルス性肝炎とMASLDを学ぶ。
授業計画 【第12回】	1 2. 末梢血演習 テキストを参考にしながら、検査結果を解釈することを学ぶ。
授業計画 【第13回】	1 3. 筋肉 筋肉の機能に関してフレイルとサルコペニアについて学ぶ。
授業計画 【第14回】	1 4. 生殖器2 生殖機能を理解し、婦人科疾患・産科疾患について学ぶ。
授業計画 【第15回】	1 5. まとめ 半年間の実習のまとめ。課題の解説。小テストおよびその解説。
授業の到達目標	それぞれの臓器について解剖生理学、病理学が理解出来る。【知識・理解の獲得】 理解した内容を、病気の診断に応用できるようにする。【知識・理解の深化】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)
授業時間外学習【予習】	【予習】配布したレジメの次の授業内容について読んで来ること。(30分程度)
授業時間外学習【復習】	【復習】その日に実習で勉強した内容を教科書やプリントを見て確認すること。(1時間程度)
課題に対する フィードバック	スケッチを確認後返却します。
評価方法・基準	規定により6回以上欠席すると再履修となる。 最終回に、理解度を確認するための試験を行う。最終回の試験と小テストの点数を評価する。
テキスト	臨床検査ハンドブック 医歯薬出版
参考書	はじめての解剖生理学 一講義と実習一 金澤寛明 著 (南江堂) 生体のしくみ 標準テキスト 第3番 新しい解剖生理 高松研、堀内ふき 著 (医学映像教育センター)
備考	